



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2017
9月28日号160
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024(559)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

ワニとシャンプー



副会長 鈴木雅博

このタイトルの意味が分かった人は『モノノフ』ですね。

この原稿を書いている1週間前は、子供に「1か月も夏休みがあったのに何でこんなに宿題が残っているの」と自分が小さかった頃に言われていたセリフをそのまま子供に言っていました。原稿の締め切りが迫る今、そのセリフがそのまま自分に跳ね返ってきて、やっぱり親子だなと思いつつも、成長していない自分を実感しています。

改めまして。福島放技ニュースを読んでいるみなさま初めまして。総会・理事会を経て今年より副会長に選任されました鈴木雅博です。

ここで「そもそも一体、こいつは誰だ」となってしまう前に、簡単ではありますが、自己紹介をさせていただきます。

現在は、会津地区にある竹田総合病院 放射線科で課長（技師長相当職で、放射線科の科長は放射線科医であり、言葉にすると同じカチョウだが、放射線科内のごんべんのカチョウ）として務めています。生まれも育ちも地元会津で、高校を卒業して技師の養成所を選ぶ際は、出来るだけ親元を離れたく岐阜の短大に進学をしました。卒業後は、新里会長の務める病院で1年働いた後に、地元にある現在の病院に就職しました。技師歴としては今年で20年目になり、浅学菲才の私ではありますが、RISやPACSの構築に携わったことなどからネットワーク関連と核医学検査（主にPET）をメインに担当しています。

4年前に前任者より今の課長職を引き継いで、その後、会津地区協議会の委員長ならびに地区代表理事に2年前から就任。一期2年を経験して、今回、副会長に選任されました。そんな自分なので、まだ技師会の役員として歴代の錚々たる大先輩が築き上げてきた福島県診療放射線技師会の歴史をわかっていないことから、今回、技師会の歴史を調べてみたところ、昭和23年に創設し、平成3年に社団法人を設立、平成25年に公益社団法人に移行と創設から69年、来年度には節目となる70年を迎える歴史ある専門職能団体ということがわかりました（間違っていたら今後、どこかで訂正します）。その福島県診療放射線技師会の副会長が自分に務まるかと言う不安もありますが、技師会の更なる発展と診療放射線技師の地位向上に貢献するために、そして会務を遂行するためにも、会長のサポートを全力で行いながら、会員のみなさまのご理解とご支援を頂き、みなさまのご意見を参考に共に成長していければと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

福島県立医科大学 新医療系学部だより

福島県立医科大学新医療系学部設置準備室 久保 均

今回は、平成29年8月31日に開催されました福島県立医科大学新医療系学部設置準備委員会で公開されました内容の一部をご紹介します。

本準備委員会は新医療系学部について必要事項を審議するための委員会であり、委員長は竹之下理事長兼学長です。委員は、県内外の保健医療関係者、学識経験者、関係行政機関職員および本学教職員の中から選ばれています。今回の議題は、新医療系学部の設置について（中間まとめ）＜素案＞について議論されました。本中間まとめは、新医療系学部設置計画の基本的な考え方をとりまとめたものであり、最終的に文部科学省の大学設置・学校法人審議会（通称：設置審）へ提出する書類の基本データとなるものです。

この中では、「設置の趣旨および必要性」、「学部、各学科の設置理由」、「育成する人材像および学位授与方針」、「学部・学科などの特色、名称、学位の名称」、「教育課程編成・実施の方針」、「教員組織の編成の考え方および特色」、「教育方法、履修指導方法および卒業要件」、「施設、設備などの整備計画」、「入学者選抜の概要、受入方針」、「実習の具体的計画」、「運営、自己点検・評価」、「学生確保の見通し」、および「人材需要の動向等社会の要請」等の事項が述べられています。新学部と学科の名称については一部の報道でご存じの先生方も多いかと思いますが、現時点では保健科学部（仮称）および理学療法学科、作業療法学科、診療放射線科学科および臨床検査学科（全て仮称）としております。（まだ正式決定ではありませんので、仮称としております。）私ども診療放射線技師養成課程を担う学科は、診療放射線科学科（仮称）としております。これは、やはり科学的なマインドを持つ診療放射線技師を育てたいこと、放射線科など他の名称と紛らわしくないこと、等を考えて候補いたしました。少々長い名称なのが何かと面倒ですが、決まりました際には是非ともご眞頂にお願いいたします。

また、この中では入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）、および学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の案を示しています。これらは、中央教育審議会での議論を経て各大学での策定を法令上位置づけられたもので

す。ディプロマ・ポリシーはどのような人材を輩出したいかを示し、そのために必要と考える教育課程はカリキュラム・ポリシーで示します。また、どのような学生に入ってきて欲しいかはアドミッション・ポリシーで示しますので、これを見ればおおよその入試の内容が見えてくるはずです。このように、一つの学部、四つの学科を創るために多くの事項を決めながら進めています。次回からは、これらの中身について少し具体的にご紹介していきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。



本年8月25日から奈良で開催されたPETサマーセミナーに参加した際に、奈良公園で鹿と戯れてきました。最初はお互い仲良くお辞儀していましたが、何故だか全力で拒否されてしまいました…。相手の気持ちを理解するのは、やはり大変です…。なお、2019年には本セミナーを福島で開催します。PETに関係する皆さまは、是非ともご参加下さい。

～会長 「オンレコ」～

1 「東京電力福島第一原子力発電所の視察」

遊佐事務局長が、副会長の時から東京電力と交渉を重ねて頂き実現出来ました。県内会員22名で8月3日に視察を行いました。福島県技師会として、事故後の原発を直接視察出来て良かったと考えます。廃炉に向かって進んでいる部分が見えましたが、まだ完全に終息するには長い時間がかかると感じました。

2 「医療体験セミナーへの準備」

初めての事で何から進めて良いか迷いました。ただ、色々協力してくれる会員がいて大変助かっています。AMINによるWSでの3次元処理の体験、インスタントカメラでの擬似撮影の体験、技師紹介のプレゼン、プロ

テクターを実際に着てみる体験、広報グッズのポケットティッシュの配布等を検討しています。

3 「臨時総会を検討中」

今年度中には、学術奨励積立資産についての運用が必要でした。その運用には、理事会と総会での承認が必要になります。今年度の総会は終わっていますが、来年度までは待てない事になりました。その他の案件もありますので、臨時総会の開催や資産運用等について、第3回理事会で承認を頂きました。臨時総会は、執行部会で日程調整を行います。臨時総会は、執行部会で日程調整を行います。第一候補として学術大会の開会式前を検討しています。

東京電力福島第一原子力発電所見学会

田村市立都路診療所 菅野修一

平成29年8月3日(木)、「東京電力福島第一原子力発電所見学会」に参加しましたので報告します。(公社)福島県診療放射線技師会では、一般の方を対象に放射線に関する講演会や被ばく相談を実施してきましたが、今後は原子力発電所の廃炉に関する情報も提供できるよう現状を把握する目的として見学会が開催されました。

原子力発電所事故から6年が経過し、廃炉に向けた作業が本格化していますが、原子炉建屋内外の放射線空間線量が非常に高く作業が難航しているようでした。放射性物質の飛散抑制及び空間線量を低減するため、表土にモルタルの吹き付けが施されていました。また津波の影響は凄まじく、当時の状況がそのまま残されているところが多数ありました。

廃炉作業に従事する作業員の環境改善のため大型休憩所を構内に建設し、コンビニエンスストアや食堂が整備されていました。救護室には超音波画像診断装置やX線撮影装置が備えられており、重症患者が出た場合にはド

クターヘリを依頼し緊急搬送することも可能となりました。

作業員の健康管理には細心の注意を払っており、放射線被ばく線量の管理のほか、夏季の熱中症対策に重点を置いていました。現在は防護服を着用して作業する作業員は全体の5%ほどで、他の95%の作業員は一般作業服で作業していました。作業員の内部被ばく線量の測定は男性が3ヶ月ごと、女性が1ヶ月ごとに実施されていました。放射線に関する教育は入職時に受講しますが、よろず相談も行われており作業員の心身をケアする体制が構築されていました。

廃炉作業が完了するまで30年から40年を要すると言われています。見学会の最後に東京電力の社員から、今後も定期的に訪問視察していただき、国民に福島第一原子力発電所の現状を伝えてほしいと仰っていました。我々、診療放射線技師がどこまで国民に伝えられるかは、原発事故の影響と廃炉の苦勞をしっかりと理解することだと思いました。

平成29年
第1回福島県緊急被ばく医療対策協議会

議題・議事記録

報告者 佐久間 守雄

平成29年7月24日 福島テルサ

1. 福島県緊急被ばく医療対策協議会設置要綱の一部改正について

資料1-1、資料1-2参照。

原子力規制委員会が既に名称変更しているのに福島県も追従する形で「緊急被ばく医療」としていたところを「原子力災害医療」に変更する提案がなされた。出席者からは反対意見なく、了承された。

今後、この協議会の名称は「福島県原子力災害医療対策協議会」となる。

また原子力災害時における医療体制の見直しにより、現在の初期被ばく医療機関、二次被ばく医療機関、三次被ばく医療機関という体制から、高度被ばく医療支援センター、原子力災害医療・総合支援センター、原子力災害拠点病院、原子力災害医療協力機関に変更されたのは以前の報告通りである。

2. 第7次医療計画について

資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料3、参考資料2つ参照

今年は、6年に1度の改正時期である。

原子力災害医療は、第2編各論の第4節に含まれる。

資料2-3より、情報共有の文言が少ないとの意見があり「1. 現状と課題 ・広域（県全体・県外）による関係機関との連携・情報共有体制や人員、資機材等の整備・強化が必要。」に変更される可能性あり。

資料2-3には数値目標も含まれているが、決定には困難を極めるのではとの意見あり。

また、今回は基本構想の話し合いであり、詳細は9～10月頃に具体的な内容審議を行っていく。

3. その他

原子力防災訓練を今年も行う。平成29年10月28日(土)に開催する。川俣体育館で浪江の住民を対象に行う。

田勢特命教授より第2編各論の第2・3節について福島県は脳卒中・心筋梗塞等の発生率が全国上位である。具体的な対応が出来る病院の明示(?)が必要ではないか。

災害時8か所(原子力災害拠点病院、原子力災害医療協力機関)だけで対応できるのか?全災害に具体的に対応できるような体制にしていく必要がある。

計画策定をする中で、ご意見を受けていきたいと県より回答。

資料2-3の3.数値目標と目標達成に必要な施策の中の(2)施策の方向性 医療資機材(放射線測定器、除染資機材、安定ヨウ素剤等)の確保に関する施策に関連して報告者より提案がある。

この文言の中に「線量計の校正」を含めることであり、またこの文章の効力を原子力災害拠点病院・原子力災害医療協力機関だけでなく他の福島県全体の病院にも有ることが出来れば、機器の1年に1回の校正が可能になるのではと考える。

その理由として、もし原子力災害医療が再発した場合、8か所の原子力災害拠点病院・原子力災害医療協力機関だけでなく、福島県全体の病院でも対応(非汚染者などの医療対応等)する必要に迫られる。その際、GMサーベイメータやNaI(Tl)シンチレーション式サーベイメータが使用されることになるだろうが、現状として機器の校正時期は製造メーカーの推奨する1年に1回の校正を実施できていないと思われる。そこで、この施策に併せて1年に1回の校正を強く推奨するように各医療機関に発信することが出来れば、適正な校正時期が確保できるのではないかと考える。もしくは他県でも実施しているような校正用線源を用いた機器校正会(校正用線源のある施設に各施設のサーベイメータを持ち寄り、校正を行う集まり)などを福島県診療放射線技師会主催で実施する必要があるのではと考える。

地区だより

会津地区

「第93回会津画像研究会」開催

平成29年7月19日に開催されました。「造影剤腎症に関する最新情報」バイエル薬品株式会社の安達恭幸先生から、造影剤の動脈投与と静脈投与のリスク比較の話や、近年造影剤腎症に関して擬陽性が含まれ過大評価されている可能性が示唆されていることなどについてご教示頂きました。「Ultra High-Resolution CT 他のご紹介」東芝メディカルシステムズ株式会社の大西輝法先生から、0.25mmで撮影が可能な超高精細CT Aquilion Precisionと新世代320列Area Detector CTのAquilion ONE GENESIS Editionの特徴、有用性などのお話を頂きました。



(佐藤)

県北地区

「県北地区夏季勉強会および交流会」開催

7月29日(土)福島市テルサ「あずま」において県北地区夏季勉強会が開催されました。今回の勉強会では「胸部Xpの基礎とデジタル化後の注意点～福島市デジタル肺がん検診読影会に携わって」大原記念財団 画像診断センター主任 堀江常満氏、「救急診療におけるX線撮影の目的とポイント」福島県立医科大学附属病院 副主任放射線技師 永井千恵氏よりそれぞれご講演いただきました。堀江氏の講演は胸部撮影について基礎の重要性を認識させられる内容でした。永井氏の講演は救急診療におけるX線撮影のポイントを勉強できる貴重な内容でした。勉強会終了後に交流会と繋がり参加された皆様有意義な時間を過ごされていたようです。

(安藤)

県南地区

平成29年度 県南地区サマーセミナー

平成29年7月29日 ビックアイにて開催され、40名の参加がありました。まず、GEヘルスケア・ジャパンより、Full Volumeで乳房をスキャンできる乳房専用超音波診断装置について講演がありました。この装置は、片側乳房を2～3回撮像し3D-Volumeデータを得て、その後WSで表示するため、従来のhandheldでの超音波検査と比較して、検査者のスキルに左右されにくく、過去画像との比較、異なる断面での同時観察が可能となりました。アジア人50歳以下では80%が高濃度乳腺と言われています。高濃度乳腺への超音波検査を併用することの必要性も言われており、こういった装置の普及は、データの管理やWSでのVolumeデータの操作も求められることから、乳腺エコーへの放射線技師の関わりもさらに出てくるものと感じました。

ワークステーションの最新技術では、3社から講演をいただきました。WSは3D画像を作成するだけでなく、様々な解析が可能となりました。心臓領域のWMT (Wall Motion Tracking) では、Taggingを撮像しなくても、Cine画像のみでStrainの評価が可能となりました。また、異なるモダリティや検査日が異なる画像など、別な検査の画像に対してスライス断面を同じく表示できる機能があり、subtractionすることで病変の違いを見ることができるとのことです。

セミナーの中で、様々な質問が出され活発な会となりました。



(國分)

《セミナー便り》

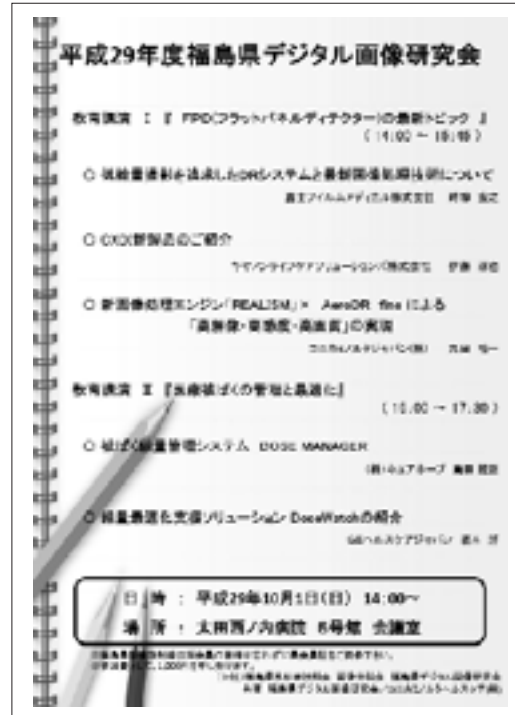
「第17回福島県乳腺画像研究会」開催

9月2日(土)に郡山市ホテルバーデンにて、開催されました。今年のテーマは最近何かと話題の高濃度乳房に焦点をあてました。教育講演は、フィリップスの「フォトンカウンティングによるスペクトラルイメージングがもたらす乳腺密度測定」日立製作所の「高濃度乳腺に対する乳腺エコーの取り組み」、島津製作所の「島津製作所製 乳房専用PET装置 El mammoの臨床的有用性」の3題でした。最新技術と高濃度乳房に対する取り組みを講演して頂き、大変有意義な講義となりました。第2部として、シンポジウム形式で「県内のトモシンセシスユーザーからの使用経験及び臨床経験」と題して、県内各地のトモシンセシスユーザー4施設4名の方から講演をして頂きました。トモシンセシスの特徴である振り角がメーカーにより様々でそれにより画質画像の違いが分かり、今後トモシンセシスの導入を考えている施設には、参考になったのではないかと思います。60名近い参加者が集まって下さり、会場から質疑も出て大変有意義な研究会になりました。

《今後の研究会》

「平成29年度福島県デジタル画像研究会」

日 時：平成29年10月1日(日)
場 所：太田西ノ内病院 5号館



会費の納入は
お済ですか？

納入期限は9月末迄です。
お早めにおねがいします。

「第6回福島救急撮影カンファレンス」

日 時：平成29年10月21日(土)
場 所：郡山 ビューホテル

編 集 後 記

ラジエーションハウス第4巻 手に取っていただけましたか？今回の内容は、私たちの仕事の基礎となる一般撮影です。後半はAiのお話が始まっていきます。福島県は東北でもAiのCT撮影の割合が非常に高いそうです。私たちの業務もAiや超音波、WSでの解析など多岐に渡っていくと考えます…。

(國分)

